

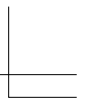
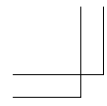
混合教育の教育効果の実証と普及・啓発等

成果報告書

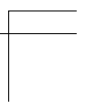
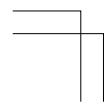


学校法人武蔵野東学園
武蔵野東高等専修学校

平成 29 年度 文部科学省委託事業
専修学校による地域産業中核的人材養成事業
混合教育の教育効果の実証と普及・啓発及び
発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業



本報告書は、文部科学省の生涯学習振興事業委託費による委託事業として、武蔵野東高等専修学校が実施した平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」の成果をとりまとめたものです。



目次

第1章	事業の概要	2～9
	1-1 事業名	
	1-2 事業の概要	
	1-3 目指すべき人材像	
	1-4 事業の実施期間	
	1-5 事業の実施体制	
	1-6 事業推進委員会および分科会実施経緯	
第2章	障害のある人への理解教育のためのカリキュラム	10～17
	2-1 中学生を対象としたカリキュラム	
	2-2 高校生・高等専修学校生を対象としたカリキュラム	
第3章	障害のある人への理解教育のための教材開発	18～46
	3-1 教材の提案	
	3-2 授業例として	
	3-3 中学生を対象とした「こころの作文コンクール」を実施して	
第4章	事業のまとめ	47

第1章 事業の概要

1-1 事業名

平成29年度「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」

『混合教育の教育効果の実証と普及・啓発及び発達障害など特別に配慮が必要な生徒が学ぶための教育カリキュラムの開発・実証事業』

1-2 事業の概要

全国にある多くの高等専修学校が、発達障害など特別に配慮が必要な生徒の受け入れをしており、その教育支援について困惑している状況がある。また、平成27・28年度の2年間継続して、本校が大岡学園高等専修学校の事業と連携して実施した教育支援体制に関する実態調査から、当該生徒は障害のない生徒と同環境で学んでいる現状と教育支援における問題点を把握できた。本校は、これまで発達障害のある生徒が障害のない生徒と同環境のなかで日常的な交流をとおして学ぶことによって、双方に教育効果をもたらす混合教育を実践してきた。正に、本校の取り組みを他校に提供することが有効であると確信するに至った。本事業では、本校で実践している混合教育の教育効果について実証し、教育モデルカリキュラムの開発や障害のある人への理解教育推進のためのカリキュラムおよび教材開発を行い、広く全国の高等専修学校をはじめとする教育機関に普及させていくことを目的とする。さらに、教育界においてインクルーシブ教育の重要性が叫ばれるなかにおいて、本校が取り組む混合教育を広く発信することにより、社会における障害のある人への理解推進、ノーマライゼーション実現に向けての一矢となるよう取り組んでいくものとする。

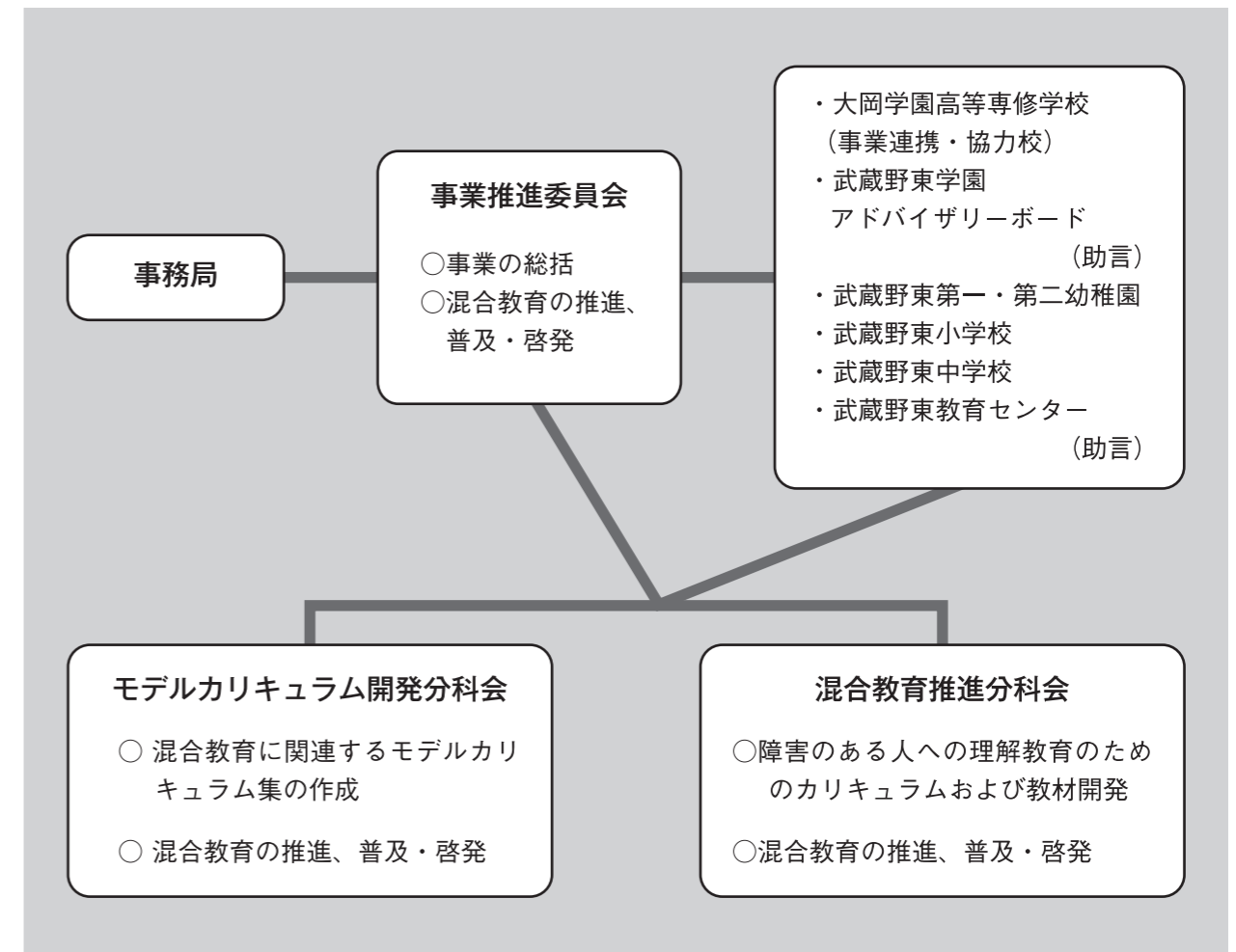
1-3 目指すべき人材像

混合教育推進によって、発達障害など特別に配慮が必要な生徒に対する教育効果を高め、実社会において活躍できる人材を育成する。また、障害のない生徒に対しても障害のある人への理解を深めさせ、ノーマライゼーション実現に向けての人材として育成する。

1-4 事業の実施期間

平成29年5月8日～平成30年2月28日

1-5 事業の実施体制



(1) 構成機関（機関として本事業に参画する学校・企業・団体など）

	構成機関（学校・団体・機関など）の名称	役割等	都道府県名
1	武蔵野東高等専修学校	総括・実施校	東京都
2	大岡学園高等専修学校	事業連携・協力校	兵庫県
3	武蔵野東学園アドバイザリーボード（※）	助言	東京都
4	武蔵野東第一・第二幼稚園	助言	東京都
5	武蔵野東小学校	助言	東京都
6	武蔵野東中学校	助言	東京都
7	武蔵野東教育センター	助言	東京都

（※）武蔵野東学園アドバイザリーボードとは、本学園の教育に関して諸々の助言・提案を行い、学園が広く社会の教育・福祉の発展に寄与することを目的に設置された機関である。教育、医学、福祉、文化など各界の有識者の方々を委員としてお迎えして、年次会議のほか、職員研修会にも参加していただき、多くの助言を頂戴している。平成27・28年度の事業においても事業参加していただき、助言を頂戴している。

(2) 事業推進委員会

<目的> ・事業全体の総括

・構成機関および分科会との連携

<検討の具体的内容> ・事業の総括

・事業の進捗状況についての確認

・混合教育の推進、普及・啓発

・事業成果の取りまとめ

<構成員>

	所属・職名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	清水 信一	武蔵野東学園 常務理事	助 言	東京都
2	渡辺 正司	武蔵野東高等専修学校 校長	委員長	東京都
3	泉 秀夫	武蔵野東高等専修学校 教務統括部長	委員	東京都
4	天宮 一大	武蔵野東高等専修学校 教育統括部長	委員	東京都
5	景山 優	武蔵野東高等専修学校 入試広報主任	委員	東京都

(3) モデルカリキュラム開発分科会

<目的> ・混合教育に関連するモデルカリキュラム集の作成

・混合教育の推進、普及・啓発

<検討の具体的内容> ・昨年度作成した年間活動・指導カリキュラム（普通教科・専門教科・

ホームルーム）を取りまとめ、混合教育モデルカリキュラム集を作成

・障害程度中度・重度の生徒が学ぶためのモデルカリキュラムの取りまとめ

<構成員>

	氏 名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	大南 英明	全国特別支援教育推進連盟理事長	助 言	千葉県
2	岩崎 敦子	武蔵野東学園卒業生保護者	助 言	東京都
3	内山 登紀夫	福島大学教授・よこはま発達クリニック院長	助 言	神奈川県
4	長内 博雄	前武蔵野東教育センター所長	助 言	東京都
5	寺山 千代子	星槎大学客員教授	助 言	千葉県
6	天宮 一大	武蔵野東高等専修学校 教育統括部長	委員長	東京都
7	釘村 佳伸	武蔵野東高等専修学校 専科主任	副委員長	東京都
8	志村 順	武蔵野東高等専修学校 3学年主任	委員	東京都
9	木田 賢一	武蔵野東高等専修学校 2学年主任	委員	東京都
10	松村 力	武蔵野東高等専修学校 1学年主任	委員	東京都
11	大久保 英之	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
12	篠原 聡	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
13	荻村 寿浩	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
14	壽山 博道	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
15	杉山 知里	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都

※上記1～5 → 武蔵野東学園アドバイザーボード委員

(4) 混合教育推進分科会

<目的> ・混合教育の推進と障害のある人への理解教育のためのカリキュラムおよび教材開発

<検討の具体的内容> ・障害のある人への理解教育のためのカリキュラムの開発・実証

・障害のある人への理解教育のための教材開発・実証

・混合教育の推進、普及・啓発

<構成員>

	氏 名	所属・職名	役割等	都道府県名
1	室山 哲也	NHK 解説委員	助 言	東京都
2	師岡 秀治	元学研ヒューマンケア編集長	助 言	東京都
3	関本 恵一	元帝京大学教授	助 言	東京都
4	鎌倉 ゆみ子	社会福祉法人 武蔵野千川福祉会 理事長	助 言	東京都
5	宮崎 活志	武蔵野市教育長	助 言	東京都
6	高田 隆	帝京平成大学 教授	助 言	埼玉県
7	泉 秀夫	武蔵野東高等専修学校 教務統括部長	委員長	東京都
8	景山 優	武蔵野東高等専修学校 入試広報主任	副委員長	東京都
9	中田 重夫	武蔵野東高等専修学校 教務主任	委員	東京都
10	高田 一男	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
11	久保 幸治	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
12	那須 達磨	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
13	杉林 優子	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
14	清水 貴秀	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
15	坂口 陽子	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都
16	松尾 悠乃	武蔵野東高等専修学校 教諭	委員	東京都

※上記1～6 → 武蔵野東学園アドバイザーボード委員

※各分科会に加わっている武蔵野東学園アドバイザーボードの委員については、6/13（火）、10/16（月）、1/23（火）に開催するアドバイザーボードミーティングにおいて各分科会の助言をいただくこととする。

1-6 事業推進委員会および分科会実施経緯

(1) 事業推進委員会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

第1回 平成29年5月22日（月）

- ①事業内容について
- ②委員会・分科会の開催・会議議事録作成について
- ③事業推進における留意事項

第2回 平成29年7月13日（木）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況報告
- ②混合教育カリキュラム集および成果報告書の仕様書について
- ③事業推進における留意事項

第3回 平成29年9月12日（火）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況報告
- ②混合教育カリキュラム集および成果報告書の最終仕様書について
- ③事業推進における留意事項

第4回 平成29年10月6日（金）

- ①委員会・分科会の事業進捗状況報告
- ②成果物製作にあたる業者の確定
- ③事業推進における留意事項

第5回 平成29年12月7日（木）

- ①委員会・分科会の進捗状況報告
- ②成果報告書作成に向けて
- ③事業推進における留意事項

第6回 平成30年2月1日（木）

- ①事業のまとめ
- ②事業成果報告会について

(2) モデルカリキュラム開発分科会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

第1回 平成29年5月12日（金）

- ①事業内容について
- ②混合教育モデルカリキュラム集作成に向けて
- ③委員の役割分担について

第2回 平成29年7月21日（金）

- ①事業内容の確認および昨年度の事業の振り返り
- ②障害程度中度・重度の生徒のためのカリキュラムについて
- ③文言の統一について

第3回 平成29年9月15日（金）

- ①文言統一一覧表の確認
- ②原稿サイズ、書式の確認
- ③入稿までの予定の確認

第4回 平成29年10月10日（月）

- ①入稿に向けたカリキュラム内容最終確認
- ②入稿までの予定詳細確認

第5回 平成29年12月19日（火）

- ①入稿に向けた最終確認
- ②今後の予定について

第6回 平成30年2月2日（金）

- ①現在までの進捗状況の確認
- ②事業のまとめ

(3) 混合教育推進分科会

開催回数：6回（5月・7月・9月・10月・12月・2月）

- 第1回 平成29年5月29日（月）**
- ①事業内容について
 - ②障害のある人への理解教育のためのカリキュラムおよび教材開発について
 - ③委員の役割分担について
- 第2回 平成29年7月21日（金）**
- ①昨年度の事業において作成されたカリキュラムの素案をもとに意見交換
 - ②昨年度作成した混合教育DVDを活用したワークシート教材をもとに意見交換
- 第3回 平成29年9月15日（金）**
- ①学年別カリキュラム作成におけるグループ編成
 - ②各グループによるカリキュラム作成に向けた意見交換
 - ③教材開発に向けた提案について検討
- 第4回 平成29年10月20日（金）**
- ①グループ毎のカリキュラム内容の報告とポイントの確認
 - ②教材開発の状況報告と今後の方向性について
- 第5回 平成29年12月1日（金）**
- ①グループ毎のカリキュラム・教材開発の進捗状況
 - ②教材を活用した実証講座の実施に向けて
- 第6回 平成30年2月1日（木）**
- ①カリキュラム・教材開発の進捗状況
 - ②教材を活用した実証講座の報告と検証

(4) 武蔵野東学園アドバイザーボードミーティング

開催回数：3回（6月・10月・1月）

- 第1回 平成29年6月13日（火）**
- ①事業内容の説明と委員への協力要請
 - ②意見交換
- 第2回 平成29年10月16日（火）**
- ①事業全体の進捗状況報告と分科会ごとの説明
 - ②中学生ころの作文コンクールの話題
 - ③意見交換
- 第3回 平成30年1月23日（火）**
- ①高等専修学校紹介DVDを視聴しての意見交換
 - ②事業全体の進捗状況報告および分科会ごとの説明
 - ③意見交換

<会議スケジュール>

	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
推進協議会	○		○	○	○		○		○
モデルカリキュラム開発分科会	○		○	○	○		○		○
混合教育推進分科会	○		○	○	○		○		○
アドバイザーボードミーティング		○			○			○	
成果報告会									○

第2章 障害のある人への理解教育のための カリキュラム

2-1 中学生を対象としたカリキュラム

- 《指導方針》
- まちに暮らしている人を調べ、障害のある人も同じまちで暮らしていることを知る。
 - 障害のある人の暮らしや働いている場所を見学し、障害のある人のための施設・設備や暮らしの工夫を知る。
 - 見学や交流をとおして、障害という個性を理解する。
 - 擬似体験をすることによって、それぞれの障害を理解し、自分の生活の姿勢や態度を見直してみる。
 - こころのバリアフリーという観点から、考えられるまちづくりの構想化を行う。
 - すべての人たちに対する思いやりの気持ちを育てる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
1	まちの現状調査① ・グループ活動 ・情報収集の実践	(屋外を中心に) 点字ブロック、信号の音、盲導犬、マーク、公共交通機関など、障害のある人のための設備を見つける。	障害のある人のための施設・設備を見つけることとおして、まちのなかで暮らしていくための工夫を考えさせる。
2	まちの現状調査② 「障害のある人のための施設・設備をさがそう」	(屋内を中心に) ・エレベーター、エスカレーター、トイレ、スロープ、点字など。 ・障害のある人のための施設を一覧表にまとめる。(屋外・屋内)	このような施設・設備をとおして、健常者と同じように暮らしていくための工夫を考えさせ、これまでの体験について感想を書かせる。
3	調査結果レポート作成 ・考察をグループ毎に行いレポートにまとめる。 ・グループ内で情報交換	・各自考察を深めレポートを作成する。 ・現状の把握と認識。	レポート作成の際、グループ内での考察を深める。
4	地域の福祉の歴史と現状	地域のソーシャルワーカーの方を招き、地域の福祉の歴史と現状と今後の展望をつかむ。	お話を伺った後、グループディスカッションを行う。今できる社会貢献について考察させる。
5	福祉の環境、地域の様子 (NIE学習)	新聞や市報などを利用し障害のある人のための施設や設備の設置状況や、催し物などを調べ、積極的な参加を促す。	定期的に新聞や市報を活用し市政などにも関心を持たせる。
6	だれもが住みよいまちにするには① (ICT学習)	インターネットを利用し、福祉の現状をつかみ、もっと改善できる点、行政や市民は何ができるのかを考える。	地域や社会福祉協議会などのホームページを活用させる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
7	だれもが住みよいまちにするには② (講演) 講演例 自閉症協会の方の講演	・関係者より障害のある人の生活や就労支援、実際にあったトラブルなど、お話を伺う。 ・自閉症協会の方の話を伺い支援の現状をつかむ。	知的障害、精神障害の方の生活を知り、精神・知的障害の方々への支援のあり方を考察させる。
8	職場・施設・暮らしの理解① 「活躍している障害のある人たち」	新聞・雑誌などのメディアを使って障害のある人たちが活躍している活動を知る。(パラリンピック、芸術家、政治家 他)	障害を乗り越えて活躍する姿をとおして、心の強さに気づかせる。
9	職場・施設・暮らしの理解② 「活躍している障害のある人たち」	図書館を活用し障害のある方の自伝などを読む。	障害を乗り越えて活躍する姿をとおして、自己啓発に結び付けさせる。
10	高齢者を知る① 高齢者の日常生活について知る	高齢者の暮らしぶりや御苦労などを調査し、日本の高齢化社会の現状を認識する。	高齢者の方も町のなかで生活することに苦労が多いことを気づかせる。
11	高齢者を知る② 高齢者の日常生活について知る	日本の高齢化社会の未来の展望を考察させ、今できることについてプレゼンを行なう。	
12	高齢者を知る③ 高齢者の日常生活について知る	老人介護施設の方からお話を伺い、老人介護の実際を知る。	実体験をとおし老人介護の基本を知り老人介護に興味・関心を持たせる。
13	視覚障害① 「さわって、聴いて」	・目を閉じたまま触れたり、音を聴き実体を考える。 ・アイマスクを着用し、物を取りに行ったり、太鼓をたたいてみる。 ・伝達手段である点字に実際に触れてみる。 ・杖を使って校舎内や校外を歩いてみる。	何を頼りにして(触覚・聴覚・臭覚)生活しているのかを気づかせる。また、視覚障害のある人は、設備がわかりやすく、安全でなければならぬことを気づかせる。
14	視覚障害② 「私たちができること」	・視覚障害のある人と一緒に走るときの伴走方法や、実際にまちで白い杖を持った方を見かけたときの介助方法などのビデオを見せて、自分たちに何ができるのか考える。 ・バスや電車内などでの介助方法について学習する。	町で視覚障害の人を見かけた際、声をかけ、介助することができるように支援の仕方に気づかせる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
15	聴覚障害① 「伝達ということを考えよう」	・ヘッドホンをしている友だちに対して、ある言葉や気持ち伝えるためには、どのように表現すべきかを考える。	口形や表現を大きく明確にし、ジェスチャーを入れることも大切であることを知らせる。
16	聴覚障害② 「補聴器をしている人」 「手話体験」	・補聴器という器具を知る。 ・簡単な手話を学ぶ。	聴覚障害のある人と接するときの注意すべき点を考えさせ、支援の仕方を知る。
17	肢体不自由① 「車いす体験」	・班に分かれて、車いすに乗って校舎内外を回ってみる。 ・お互いに車いすの介助と車いす体験をする。	気づいたことを詳しくメモにとり、次時に生かす。
18	肢体不自由② 「体験をもとにした話し合い」	・どんなところが不自由と感じたのか、恐怖感はなかったのかなどを発表し合う。 ・支援の仕方やバリアフリー化のことを考える。	歩行困難な場合だけでなく、上肢の障害などについても考える。
19	知的障害① 「ビデオ視聴」 僕とパディと	・ワークシートを記述し、自己の考えをまとめる。 ・こころのバリアフリーについて考える。	障害は身体だけでないことをわからせる。知的障害のマイナス部分だけを追うことのないようにする。
20	知的障害② 「ビデオ視聴」 僕とパディと	・ワークシートの内容を発表し、ディスカッションを行う。 ・今の自分たちに何ができるか考察する。	各自の障害者に対する考え方の変化を把握させると共に、共生に対する意識を向上させる。
21	ディスカッション① ・こころのバリアフリーとは ・理想のこころのバリアフリーとは ・理想のまちづくり	・グループディスカッションにおいてそれぞれの意見交換を行う。 ・次回の調査に向けての準備をする。 ・オブザーバーとして地域の有識者に参加していただく。	意見の出やすいグループ編成によって行っていく。
22	ディスカッション② ・グループディスカッションと全体ディスカッションを織り交ぜて	・各地域の現状調査から不足な点や今後の課題について、検討する。 ・障害の種別によってそれぞれの立場で考える。	いろいろな視点で探ってみる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
23	教室ディベート① 準備 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートのルールをつかむ。 ・インターネット、図書館などで次回のディベートの資料作成およびグループミーティングを行う。	ディベートのルールを認識させ、次時に行われるディベートで自分の主張する立場に立った資料集めを行わせる。
24	教室ディベート② 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートの資料を賛成派と反対派に渡す。 ・資料の活用方法およびディベートの展開を学ぶ。 ・ディベートを体験する。	自分の持っている意見だけでなく、他の考え方にも目を向けさせるようにする。
25	ボランティアとは	社会福祉協議会の方を招きボランティアの概念および、地域のボランティアの現状をつかむ。	ボランティアに対する基本姿勢などを把握させ意欲を引き出す。
26	「中学生こころの作文コンクール」の受賞作品にふれる	・受賞作品集を活用する。 ・心に残った作文を1点選んでもらい、どの点に感銘を受けたかまとめると共にプレゼンする。	自ら作文を書きたいといった意欲を向上させられるよう授業を展開する。
27	「障害」に代わる言葉について考える	例文を紹介し各グループにてディスカッションさせる。	さまざまな視点で考察できるよう資料を提供する。
28	こころの作文コンクールの5つのテーマからひとつ選び作文する	感銘を受けた受賞作品を例文として自己の考えをまとめる。	文字数など気にせず各自のペースで作文させる。
29	まとめ① 共生をテーマとした新聞作りを行う	・新聞の名前を決める。 ・新聞の構成を考える。 ・見出しを考え内容の肉づけを行う。	やらされているのではなくやりたいといった気持ちを芽生えさせる工夫を行う。
30	まとめ② 研究発表会	これまでをとおして学んだこと、発見したこと、福祉行政などについて、学年の研究発表会を設け、グループ毎で発表を行う。	これまでの学習・体験を再確認させると共に友人の感じ方なども吸収させる。また、自分にできることを探る。

2-2 高校生・高等専修学校生を対象としたカリキュラム

- 《指導方針》
- 障害の定義について理解させる。(ICFの学習)
 - 障害のある人の暮らしや働いている場所を見学し、障害のある人のための施設・設備や暮らしの工夫を知る。
 - 見学や交流をとおして、障害という個性を理解する。
 - 擬似体験をすることによって、それぞれの障害を理解し、自分の生活の姿勢や態度を見直してみる。
 - こころのバリアフリーという観点から、考えられるまちづくりの構想化を行う。
 - すべての人たちに対する思いやりの気持ちを育てる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
1	障害者とは	ICFについて学ぶと共に障害者との共生の大切さについて把握してもらう。	厚生労働省のHPを活用しICFのポイントを整理して紹介する。
2	障害者権利条約について	国際人権法に基づいて作られたこの条約を学び、人権について考察させる。	障害者の権利について国際的な視野を持てるよう教材を工夫する。
3	障害者基本法	日本の障害者基本法について把握させると共に、このような法律が存在することを把握させる。	日本において障害者に対する法整備がなされてきた点を把握させる。
4	障害者差別解消法	障害者差別解消法を学ぶと共に、障害者権利条約を批准するうえでいかに大切な法律であるかを把握させる。	障害者差別解消法に関して要点を把握できるよう教材を提供する。
5	福祉の環境、地域の様子	新聞や市報などを利用し障害のある人のための施設や設備の設置状況や、催し物などを調べ、積極的な参加を促す。	定期的に新聞や市報を活用し、市政などにも関心を持たせる。
6	共生について考察させる①	インターネットを利用し、福祉の現状をつかむ。	地域や社会福祉協議会などのホームページを活用させる。
7	共生について考察させる②	もっと改善できる点、行政や市民は何ができるのかを考える。	
8	職場・施設・暮らしの理解① 「活躍している障害のある人たち」	新聞、雑誌などのメディアを使って、障害のある人たちが活躍している活動を知る。(パラリンピック、芸術家、政治家 他)	障害を乗り越えて活躍する姿をとおして、心の強さに気づかせる。

時数	指導内容	展開例	留意事項
9	職場・施設・暮らしの理解② 「活躍している障害のある人たち」	インターネットなどのメディアを使って、障害のある人たちが活躍している活動を知る。	
10	高齢化社会の現状① 高齢者の日常生活について知る	高齢者の暮らしぶりや御苦労などを調査し日本の高齢化社会の現状を認識する。	少子高齢化社会の日本の現状を把握させる。
11	高齢化社会の現状② 雇用状況	高齢者の雇用に関して、企業の取り組み例などを調べる。	
12	高齢化社会の現状③	日本の高齢化社会の未来の展望を考察させる。	今すぐ自分でできることを考えてみる。
13	視覚障害① 「私たちができること」	二人一組で目隠しをして、校舎内外を回ってみる。(一人は目隠し、一人は介助者)	安全を確保し、視覚障害の方の苦労を実際に体験する。
14	視覚障害② 「私たちができること」	視覚障害のある人と一緒に走るときの伴走方法や、実際にまちなかで白い杖を持った方を見かけたときの介助方法などのビデオを見せて、自分たちに何ができるのか考え、バスや電車内などでの介助方法について学習する。	町で視覚障害の人を見かけた際、声をかけ、介助することができるように支援の仕方に気づかせる。
15	聴覚障害① 「補聴器をしている人」	補聴器という器具を知る。(どのような種類の器具があるか?)	
16	聴覚障害② 「手話体験」	簡単な手話を学ぶ。(実際に友人に自分の伝えたいことを手話を使って伝えてみる)	聴覚障害のある人と接するときに注意すべき点を考えさせ、支援の仕方を知る。
17	肢体不自由① 「車いす体験」	・ 班に分かれて、車いすに乗って校舎内外を回ってみる。 ・ お互いに車いすの介助と車いす体験をする。	安全に注意する。
18	肢体不自由② 「車いす体験」	支援の仕方やバリアフリー化のことを考える。	

時数	指導内容	展開例	留意事項
19	知的障害① 「ビデオ視聴」 僕とバディと	・ワークシートを記述し、自己の考えをまとめる。 ・こころのバリアフリーについて考える。	障害は身体だけでないことをわからせる。知的障害のマイナス部分だけを追うことのないようにする。
20	知的障害② 「ビデオ視聴」 僕とバディと	・ワークシートの内容を発表し、ディスカッションを行う。 ・今の自分たちに何ができるか考察する。	各自の障害者に対する考え方の変化を把握させると共に、共生に対する意識を向上させる。
21	ディスカッション① ・こころのバリアフリーとは ・理想のこころのバリアフリーとは ・理想のまちづくり	・グループディスカッションにおいてそれぞれの意見交換を行う。 ・次回の調査に向けての準備をする。オブザーバーとして地域の有識者に参加していただく。	意見の出やすいグループ編成によって行っていく。
22	ディスカッション② ・グループディスカッションと全体ディスカッションを織り交ぜて	・各地域の現状調査から不足点や今後の課題について、検討する。 ・障害の種別によってそれぞれの立場で考える。	いろいろな視点で探ってみる。
23	教室ディベート① 準備 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートのルールをつかむ。 ・インターネット、図書館などで次回のディベートの資料作成およびグループミーティングを行う。	ディベートのルールを認識させ、次時に行われるディベートで自分の主張する立場に立った資料集めを行わせる。
24	教室ディベート② 『障害のある人と共にまちで暮らす』	・ディベートの資料を賛成派と反対派に渡す。 ・資料の活用方法およびディベートの展開を学ぶ。 ・ディベートを体験する。	自分の持っている意見だけでなく、他の考え方にも目を向けさせるようにする。
25	ボランティアとは	社会福祉協議会の方を招きボランティアの概念および、地域のボランティアの現状をつかむ。	ボランティアに対する基本姿勢などを把握させ意欲を引き出す。
26	「中学生こころの作文コンクール」の入選作品に触れる	・受賞作品集を活用する。 ・心に残った作文を1点選んでもらいどの点に感銘を受けたかまとめると共にプレゼンする。	自ら作文を書きたいといった意欲を向上させられるよう授業を展開する。

時数	指導内容	展開例	留意事項
27	「障害」に代わる言葉について考える	例文を紹介し、各グループにてディスカッションをさせる。	さまざまな視点で考察できるように資料を提供する。
28	こころの作文コンクールの5つのテーマからひとつ選び作文する	感銘を受けた受賞作品を例文として自己の考えをまとめる。	文字数など気にせずに各自のペースで作文させる。
29	まとめ① 共生をテーマとしたレポート作成を行う	レポートの形式を確認し、自己の検討事項と調査結果、および今後の展望をまとめる。	やらされているのではなく、やりたいといった気持ちを芽生えさせる工夫を行う。
30	まとめ② 研究発表会	これまでをとおして学んだこと、発見したこと、福祉政策について、グループ毎に発表し合う。	これまで学習してきたことを再確認すると共に、友人の考え方を知る。また、自分にできることを探す。

第3章 障害のある人への理解教育のための教材開発

3-1 教材の提案

◇ねらい：「障害のある人への理解教育」をとおして すべての人たちに対する思いやりの気持ちを育てる

【授業の流れ】

障害理解教育カリキュラム1～25までの授業展開をしたうえで、まとめのひとつとして、武蔵野東高等専修学校主催による「中学生こころの作文コンクール」受賞作品の優秀賞受賞作品を利用して、ディスカッションを行う。また感銘を受けた受賞作品を例文として、自己の考えを作文にまとめる。なお、その他記載されているワークシートは必要に応じて使用する。

【障害理解教育カリキュラム】

◆中学生のみ

〈1〉〈2〉まちの現状調査①②

〈3〉調査結果レポート作成

〈4〉地域の福祉の歴史と現状

◆高校生 / 高等専修学校生のみ ※ワークシートはなし

〈1〉障害者とは 厚生労働省 HP

http://www.mhlw.go.jp/shingi/2008/10/dl/s1031-10e_0001.pdf

〈2〉障害者権利条約について 外務省 HP

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinken/index_shogaisha.html

〈3〉障害者基本法内閣府 HP

<http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/kihonhou/s45-84.html>

〈4〉障害者差別解消法 内閣府 HP リーフレット

http://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai_leaflet.html

障害者に関する法律などの観点からも理解を深めたうえで、カリキュラムを実践する。

◆中学生 / 高校生 / 高等専修学校生共通

〈5〉福祉の環境・地域の様子

〈6〉〈7〉中)だれもが住みよいまちにするには①② / 高)共生について考察させる①②

〈8〉〈9〉職場・施設・暮らしの理解①② 「活躍している障害のある人たち」

〈10〉〈11〉〈12〉高齢者を知る①②③

〈13〉〈14〉視覚障害①②

〈15〉〈16〉聴覚障害①②

〈17〉〈18〉肢体不自由①②

〈19〉〈20〉知的障害①② 文科省委託事業制作物「僕とパディと」を視聴して

〈21〉〈22〉ディスカッション①②

〈23〉〈24〉教室ディベート①②

〈25〉ボランティアとは

} ※ワークシートはなし

〈26〉「中学生こころの作文コンクール」受賞作品にふれる

〈27〉「障害」に代わる言葉について考える

〈28〉こころの作文コンクールの5つのテーマからひとつ選び作文する

〈29〉まとめ①共生をテーマとした新聞作り・レポート作成を行う

〈30〉まとめ②研究発表会

} ※ワークシートはなし

ワークシート 《1-25》については、必要に応じて使用する。

〈 〉は障害理解教育カリキュラムに記載されている時数

《1》まちの現状調査①<屋外中心>障害のある人のための設備を見つけてみよう！（マークや標識など含む）

場 所	どんな設備？（何の設備）	備考（その他メモなど）

《2》まちの現状調査②<屋内中心>障害のある人のための設備を見つけてみよう！（マークや標識など含む）

場 所	どんな設備？（何の設備）	備考（その他メモなど）

《3》調査結果レポート作成 知らなかったもの知っていたものなど、グループ毎で感想をまとめる（箇条書きで良い）

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・
--

《4》地域の福祉の歴史と現状

ソーシャルワーカーさんの話を聞いたうえで、いま自分たちでもできる社会貢献について話し合い、箇条書きしてみよう！

<p>（いますぐできる社会貢献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ <p>（時間はかかりそうだが できそうな社会貢献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ <p>（やるべきだとは思うが 自分たちだけでは難しいと思われる社会貢献）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・

《5》福祉の環境・地域の様子

地域新聞や市報を閲覧し障害のある人のための施設や設備の設置状況、催し物を調べ（担当を決める）発表する

○地域新聞担当： ○市報担当： ○市役所 / 町役場窓口担当：

日時	内 容	参加可否
		可・不可
		可・不可
		可・不可
		可・不可
		可・不可
		可・不可
		可・不可

《6》だれもが住みよいまちにするには①／共生について考案させる①

インターネットを利用して福祉の現状を掴む（社会福祉協議会のHPを閲覧し、気づいたことを箇条書きしてみる）

《7》だれもが住みよいまちにするには②／共生について考案させる②

日本自閉症協会制作のDVD などを見た感想を書きましょう

※自閉症協会 DVD 「自閉症の子供たち バリアフリーを目指して」
<http://www.autism.or.jp/book05/dvd1.htm> 定価：1200 円

《8》《9》職場・施設・暮らしの理解①②「活躍している障害のある人たち」

新聞・雑誌・インターネットなどのメディアを使って障害のある人たちの活躍記事を調べたり、図書館で調べた障害のある方の自伝などを読み、その感想を発表してみよう

《10》《11》《12》高齢者を知る

- ① 高齢化社会の現状について書かれている記事などを検索する
- ② 問題点を見つけ、1 つに絞り込んだうえで、問題解決方法を話し合ってみよう！
- ③ 発表する

<問題点>



<解決方法>

《13》《14》視覚障害①②：アイマスクをして行動してみた感想などを発表し、自分たちに何ができるか話し合ってみよう

<行動してみた感想>

<自分たちが視覚障害の方たちに対して いまできることは何？>

《15》《16》聴覚障害

- ① ヘッドホンをして友達と話してみよう！
- ② 補聴器体験 手話体験

<体験してみた感想>

<自分たちが聴覚障害の方たちに対して いまできることは何？>

《17》《18》肢体不自由①②：車いす体験をしてみよう！ バリアフリーについて考えてみよう！

<体験してみた感想> どんなどころが不自由？ 恐怖感は？

<自分たちが肢体不自由の方に対して いまできることは何？>

※車いすの方だけに限らないで考えてみよう

《19》《20》知的障害①②

授業の位置づけと狙い

◇テーマ：～障害のある人への理解推進のために～

◇使用教材：DVD「僕とパディと」平成27年度 文部科学省委託事業成果物
(制作 武蔵野東高等専修学校)

◇ねらい：「障害のある人への理解教育」

<授業展開> 2コマ (45分授業×2) の場合 → ワークシートaを使用

1 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク① (10分)	ワークシートa ①「いままでに障害のある人に関わった経験はありますか？」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。 ※何も書けなくても構わない。
DVD (22分)	映像教材 DVD「僕とパディと」を視聴させる。	
ワーク② (13分)	ワークシートa ②「DVDを見て、障害のある人に対する思い(考え方)が変わりましたか？」を記入させる。	DVD 視聴後ワークシート②のA、B、Cのいずれかに○をさせたいで、自分の考えを記入させる。

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
発表 (15分)	ワークシートa ②で記入した内容をそれぞれ発表する。	
ワーク③ (10分)	ワークシートa ③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか？」を記入させる。	
発表 (15分)	ワークシートa ③で記入した内容をそれぞれ発表する。	
まとめ (5分)	皆の発表を聞いて、思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	

<授業展開> 3コマ (45分授業×3) の場合 → ワークシートβを使用

1 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク① (10分)	ワークシートβ ①「いままでに障害のある人に関わった経験はありますか?」を記入させる。	DVD 視聴前に記入させる。 ※何も書けなくても構わない。
DVD (22分)	映像教材 DVD「僕とパディと」を視聴させる。	
ワーク② - I (13分)	ワークシートβ②「DVDを見て、障害のある人に対する思い(考え方)が変わりましたか?」 I「自分の考え」を記入させる。	

2 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク② - II (15分)	グループで話し合い、ワークシートβ② - II「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは4、5名程度
発表 (20分)	グループの代表が考えを発表する。	
ワーク③ (10分)	ワークシートβ③「障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。あなたは今後どのように接しようと思いますか?」 I「自分の考え」を記入させる。	

3 時間目	活動内容	指導上の留意点
ワーク③ - II (15分)	グループで話し合い、ワークシートβ③ - II「グループの考え」にまとめを記入する。	グループは4、5名程度
発表 (20分)	グループの代表が考えを発表する。	
まとめ (10分)	皆の発表を聞いて思ったこと、感じたことをまとめとして書いてみる。	思ったまま記述する。

ワークシートα (2コマ授業で使用)

—DVD 視聴前に記入—

① いままでに、障害のある人に関わった経験はありますか? (10分)

ある ・ ない

「ある」と答えた場合、どのような関わりがありましたか? 具体的に書いてみましょう!

—DVD 視聴後に記入—

②「僕とパディと」DVDを見て、障害のある人に対する思い(考え)が変わりましたか? (13分)

A「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にしてみましょう

B「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い(考え)がありますか?

C「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い(考え)がありますか?

I 自分の考え	
<p>A,B,C いずれかに ○をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」</p>	

- ② 障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。(10分)
あなたは、今後どのようなことに配慮し(気をつけて)接しようと思いますか？

I 自分の考え

- ③ 自分の考えと皆の発表を比較するなど「思ったこと」「感じたこと」などをまとめ「こころのバリアフリー」について自由に書いてみましょう！(5分)

--

ワークシートβ (3コマ授業で使用)

—DVD 視聴前に記入—

- ① いままでに、障害のある人に関わった経験はありますか？(10分)

ある ・ ない

「ある」と答えた場合、どのような関わりがありましたか？具体的に書いてみましょう！

--

—DVD 視聴後に記入—

- ② 「僕とバディと」DVDを見て、障害のある人に対する思い(考え)が変わりましたか？

A 「変わった」と答えた場合、どのように変わったか文章にしてみましょう

B 「変わらない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い(考え)がありますか？

C 「わからない」と答えた場合、障害のある人に対してどのような思い(考え)がありますか？

I 自分の考え(10分)	II グループの考え(15分)
<p>A,B,Cいずれかに ○をつける A:「変わった」 B:「変わらない」 C:「わからない」</p>	

- ③ 障害のある友だちが、あなたのクラスで定期的に学習を行うことになりました。

あなたは、今後どのようなことに配慮し接しようと思いますか？

I 自分の考え(10分)	II グループの考え(15分)

④ I 自分の考え II グループの考え 皆の発表などを比較しながら「思ったこと」「感じたこと」など、「こころのバリアフリー」について自由に書いてみましょう！（10分）

《21》ディスカッション①

<こころのバリアフリーって？どんな心でいること？>

<どんなまちだと 障害のある人たちは住みやすいと思う？>

《22》ディスカッション②高齢化や障害などの種別によって、現状不足していると思われる点はどんなこと？

種別	現状不足していると思われること	対応策があるとすれば？どんなこと？
高齢者		
視覚障害		
聴覚障害		
肢体不自由		
知的障害		

《23》《24》《25》→ワークシートはなし

①「精一杯」を見つける

Aさんの作品

世界には、さまざまな人がいます。背の高い人も低い人も、足が速い人も遅い人も、話すのが得意な人も苦手な人も、そして障害がある人も……。さまざまな人がいる中で、みんなと一緒に暮らしていくにはどのようなことが大切なのか、考えてみました。

今年の6月、私の知っている小学校の運動会を見に行きました。そのとき、一番印象に残ったのは、学年全員が出る徒競争でした。中には、足が遅い子や障害のある子もいました。

でも、スタートラインに立つと全員表情が変わりました。「一番になりたい」という思いが伝わってきました。実際、6人走るうち一番になれるのは一人だけですが、走り終わった後、みんな笑顔になっていました。また、一番になった子が、足の遅い子や障害のある子に、頑張ったね、と声をかけていました。それは、一番になれなかったけどその子の「精一杯」を友達が認め、そしてその子も自分は「精一杯」やったんだという充実感を得られた証だと思います。

自分の「精一杯」を他の人が認めてくれたらうれしいし、これからも頑張ろう、という気持ちになります。そして次の「精一杯」では、前のときより更に自分の力が高まっているのだと思います。

このように、障害のある人もない人も、お互いの「精一杯」を見つけ合い、認め合うことで、障害などの壁を乗り越えた強い「絆」が生まれるのだと思います。そして、その絆で結ばれた関係を広めていくこと、深めていくことが、さまざまな人が一緒に暮らしていくうえで大切なことだと思います。私も、まわりにいる人の「精一杯」を見つけられるような人になりたいです。

② Kちゃんが教えてくれたこと

Bさんの作品

私がまだ、小学校低学年の頃のこと。三つ年上のお姉さんにKちゃんという人がいた。Kちゃんは、休み時間になれば必ずある教室へ遊びに行っていた。そこは「ミツバチ」と呼ばれる特別支援学級の教室だった。私は当時、Kちゃんのことを姉のような存在と思っており、とても慕っていた。だから私も、よくKちゃんの後を追って、ミツバチ教室に通っていたことを今でも鮮明に覚えている。

時間の長い昼休みには、校庭の隅でミツバチ教室の子と一緒に花を植えて育てたり、Kちゃんが回してくれる大縄で縄跳びをして遊んだり、たくさん遊んだ思い出がある。Kちゃんはいつでも楽しそうにミツバチ教室の皆と触れ合っていた。その表情は、互いにとても明るく、笑顔に満ちていた。

私はある日、Kちゃんに一つ質問をした。
「何でKちゃんは、毎日ミツバチさんの教室に通っているの？」

たくさん返事が返ってくると思った。なぜ通い始めたのか、きっかけは何だったのか、色々な理由を教えてくれる……。心のどこかでそう期待していた。

しかし、返ってきた言葉は、「楽しいからだよ。だって、友達だから。」たったそれだけだった。私はまだ幼く、理解能力も低かったが、なんとなくKちゃんのその言葉が心に響いた。

今考えるとKちゃん言葉は、何の意味も込められていないストレートな言葉だったのだと思う。障害を持っている人も、自分にとって大切な友達には変わらない。それは同情でも慈悲深さでも何でもない。だからといって、Kちゃんにとって特別な存在というわけでもなく、ただ、大切な友達だったのである。この世の中、障害を持つ人と持っていない人とでは違うようにみられているが、果たして本当に違うのだろうか。きっと皆、普通の人という定義に縛られているのではないだろうか。Kちゃんは、外見が違うとしても心はいつでも通わせることができることを教えてくれた。障害の有無など関係ない。大切なのは、一人の人間として見ることなのだ。

③ 障害についての私の考え

Cさんの作品

「障害は個性である」という考えがある。障害という言葉のもつ悲愴感やマイナスイメージを取り除く意図があるのだと思う。こうした考えは、障害者を健常者の側に組み込むことで、障害者を特別扱いしない（差別させない）発想だと思うが、私はそれでは少し足りない気がする。なぜなら、障害を特別視しなければ差別をなくすことはできるかも知れないが、その先にある理解して共生するところまで意識を高めることはできないと思うからだ。バリアフリーに一番大事なのは、どちらかという、その理解と共生へ向かう意識であり、最大の敵は無関心なのだと思う。

では私は障害についてどう考えているかというと、「人は皆、障害者になる」という思いでいる。この世に生まれ出た時、私たちは目も見えず、話すことも自分で立つこともできなかったのではないか。その頃の実感がないというならば、「老いる」ということを考えてみればいい。人は皆、年をとってゆくことで目や耳が悪くなったり、体の自由がきかなくなってゆくではないか。それは自然の摂理である。だから障害とは決して特別なことではなく、他人事でもなく、わが身のことなのだ。障害がわが身のことならば、人は親身どころか真剣に、共に暮らしよい社会について考えるのではないだろうか。

「自分がケガをしてみて初めて、町が健常者向けに作られていることを実感した」などという話をよく聞く。だから必要なのは、想像力なのだ。自分が障害を持った時、町はどうあって欲しいのか、人にどう接して欲しいのか。こんなふうに自分のこととして、積極的に障害について考えるようになった時、心のバリアフリーは実現する。そして、具体的に一人一人ができることから行動を始めれば社会のバリアフリーも進んでゆくと思う。こんな詩をきいたことがある。

子ども叱るな、来た道じゃ
年寄り笑うな、行く道じゃ
来た道 行く道 同じ道
皆が通る 今日の道

この中に障害も入れたいと思う。

④ 障害が何だ、普通って何だ

Dさんの作品

私は以前、兄の事で母と喧嘩をした。両親が居ない時に私が彼にご飯を用意しなかった事が原因だった。彼は既に成人しているから、普通ならご飯くらい自らどうにか出来る年齢である。普通なら。でも、彼は一般的に見てその中には入らない。私の兄は、知的障害者だ。

知的障害とは、年齢に伴って知能が発達しない障害である。兄は二十代だが、知能は小学生程度にしか発達していない。以前はそんな事気にしていなかった。しかし、年を重ねるにつれ周囲の目というのが気になってくる。友人に兄の話をする時「ごめんね。こんな事聞いて。」と謝られ、気まずくなる。何故？何故兄は健常者ではないのだろうか。疑問は尽きない。そして、遂に彼との距離を置くようになっていた。

ある時、母から話を聞いた。兄は、福祉作業所という障害者向けのところで働いている。「今日、お兄ちゃんがあなたの事を嬉しそうに話してたって。」私がどんなに冷たく接しても、兄は大切に思ってくれたのだ。思わず涙が出た。

社会が言う普通って何だ。障害者をネタにして笑う若者は何だ。「差別は止めよう」なんて口先だけか。私は兄と暮らしていても何も不自由は無い。むしろ毎日生活する中で、彼の新しい一面を見られるのが嬉しい。そんな事も分からないのに障害者を自分の足枷にするな。障害が何だ。健常者がそんなに偉いのか。障害者への差別を無くすだなんて、彼らを見て笑う現在の健常者が居る限り到底無理だ。母は、先程述べた喧嘩した時にこう言った。「お兄ちゃんは自分が今何したいとか伝えられないの。だから、私達がさっしてあげないといけないんだよ。」と。

障害者と共に暮らすにあたって最も重要なのは、彼らが何を伝えようとしているのか、きちんと向き合って聞く事だ。そうする事で彼らが誰よりも温かい心を持っている事に気付くはずだ。一刻も早く、そんな社会になれるよう私自身も全力を尽くしたい。

⑤ 一緒に増やす「できた」

Eさんの作品

6年生の時のことだ。その日は何だか朝から気が重かった。放課後、習い事のピアノのテストがあったからだ。その曲は難しくて、途中であきらめてしまっていた。昼休みになった時、友達のBさんが、Aさんと大縄をしようと誘ってくれた。Aさんは障害をもって、みんなと同じように行動することが難しかった。だから、学校で友達と一緒にしなければならない体育の授業も苦手。給食も遅くてよく残していた。その時期の体育は、大縄をやっている、各クラス3分間で何回とべるかを競い合っていた……。Aさんはなかなかとべなかった。だから、うちのクラスはあまりいい記録が出ていなかった。3人で、体育館で練習を開始した。けれど、色々アドバイスをしても全然とべなかった。でも私達はあきらめず、一生懸命「がんばれ!」「もうちょっと!」って応援したし、Aさんもハアハアいいながらがんばっていた。しかし、授業5分前のチャイムが鳴ってしまった……。ラスト一回だけという思いが一致した。Aさんが地面をジャンプしたのと、縄が地面につくのが同時だった。とべたのだ!みんな、すごくうれしくて、廊下を走って「とべたよ!」と、担任の先生に報告した。私は、とてもうれしかった。

その時、できないことがあるって素敵なことだと思った。だって、「できない」と「できた」時の喜びがあるからだ。障害がある人はできない時の苦しみがいっぱいあると思う。でも、できた時の喜びは、それ以上にあるのではないかなと思う。

人間は自分と違う人を嫌だなと思ってしまう。でも、よく考えてみると、自分と似た人と気持ちを共有できるより、自分とは全く違う人と、同じ気持ちになれる方がずっと価値がある。「障害」とよばれる「違い」はあっても、気持ちは一緒になることができると思う。

Aさんと大縄を練習した日の夜。Aさんが真っ赤な顔をして大縄を練習している姿を思い出した。「できない」を「できる」にしようがんばっていたAさん。「できない」ままあきらめようとした私。……私も「できる」ようになりたいと楽譜を開いた。

パラリンピックを見ていると思う。「できる」を目指す人達の姿を見ると、心が熱くなり、励まされ、勇気や元気をもらう。そして、自分も「できる」を増やしたくなる。同じ「できる」を目指す人としてお互いに応援し合い、一緒に生きていきたい。

《27》「障害」に代わる言葉について考える（2コマ授業で使用）

< 1 コマ目 >

1. 受賞作品 1-5 のうち、心に残った作品はどれですか？（1点だけ選ぶ）

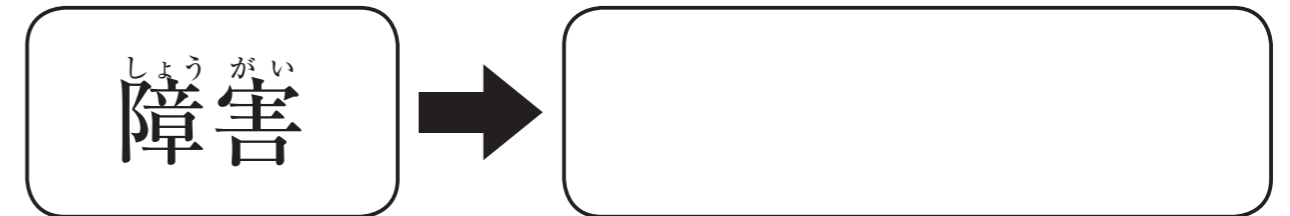
- ① 「精一杯」を見つける
- ② Kちゃんが教えてくれたこと
- ③ 障害についての私の考え
- ④ 障害が何だ、普通って何だ
- ⑤ 一緒に増やす「できた」

2. 選んだ作品のどのような点に感銘を受けましたか？簡条書きしてみましょう！

・
・
・
・

3. 自分が選んだ作品を理由を含めて、グループのみんなへ紹介してみましょう！

4. 「障害」に代わる言葉を みんなで話し合ってみましょう！



5. 受賞作品を読んで自分のなかの何かが変化しましたか？

した・しない

6. 変化したと答えた人は、どう変化したか具体的に記述してみましょう！

《28》 ころの作文コンクールの5つのテーマからひとつ選び作文する<2コマ目>

7. ころの作文コンクールのテーマからひとつ選び、作文してみましょう！

※ 1-6 を参考に書いてみましょう（自分の記述などを参考に）

- ① ころのバリアフリーって？
- ② 障害のある人も一緒に暮らすには？
一緒に生きるって素晴らしいということについて、改めて考えてみましょう
- ③ 「障害」に代わる言葉ってない？
「害」を「がい」という動きがありますが、もっと素敵な言葉を考えてみましょう
- ④ 心があたたまった話
- ⑤ 感謝を伝えたい人

3-2 授業例として

※年間をとおしてカリキュラムが組めない場合、少ない時限数で授業を行う際の一例

【障害理解教育カリキュラム】

< 45分×2 >

- 《19》《20》 知的障害①② 2コマ（45分×2）

使用教材 DVD「僕とバディと」（平成27年度 文部科学省委託事業成果物）

ワークシート a を使用

< 45分×2 >

- 《26》「中学生ころの作文コンクール」受賞作品に触れる
- 《27》を使用 「障害」に代わる言葉について考える
- 《28》を使用 ころの作文コンクールの5つのテーマから一つ選び作文する
「障害」に代わる言葉をグループ毎に発表する（複数回答可）

< 45分×2 >

- まとめ①

「共生をテーマとした新聞作り」

新聞の名前を決める

新聞の構成を考える

見出しを考え内容の肉づけを行う

- まとめ②

研究発表会を実施する

3-3 中学生を対象とした「こころの作文コンクール」を実施して

本校の混合教育の取り組みなどから、障害のある人への理解を深めるべく、情報発信し、混合教育、特別支援教育推進の一助となるようにと、平成20年度から中学生を対象とした「こころの作文コンクール」を実施しており、今年度で第10回の節目を迎えた。参加校数、応募者数において過去最高の成果を上げることができたので、本事業に関連した取り組みのひとつとして、ここで紹介する。

(1) 事業概要

【事業の目的】

- ①特別支援教育の推進が叫ばれるなか、本校が実践している混合教育、こころの教育の普及・啓発を図る。
- ②中学校の総合的な学習の時間などへの教材提供。

【主催】 学校法人武蔵野東学園 武蔵野東高等専修学校

【後援】 東京都専修学校各種学校協会
東京都中学校進路指導研究会

(2) 募集要項

【応募期間】 2017年7月20日（木）～9月30日（土） ※当日消印有効

【応募資格】 中学生（学年は問いません）

【テーマ】 ①こころのバリアフリーって？

『僕とパディと』DVDを観て、こころのバリアフリーについて考えてみましょう

②障害のある人も一緒に暮らすには？

一緒に生きるって素晴らしいということについて、改めて考えてみましょう

③「障害」に代わる言葉ってない？

「害」を「がい」という動きがありますが、もっとすてきな言葉を考えてみましょう

第10回特別テーマ

④心があたたまった話

⑤感謝を伝えたい人

※④および⑤は「こころのバリアフリー」「障害」などの言葉に捉われず、

いままでの人生のなかで経験した、思ったことを自由に書いていただいて結構です。

【 字数 】 800字（原稿用紙2枚）程度

【 書式 】 縦書き、横書き、どちらでも構いません。

手書き（筆記具自由）、ワープロどちらも可

(3) 応募状況

年	回	応募校数	応募作品総数
2008	第1回	13校	496編
2009	第2回	12校	349編
2010	第3回	8校	119編
2011	第4回	15校	140編
2012	第5回	24校	597編
2013	第6回	38校	453編
2014	第7回	41校	638編
2015	第8回	44校	399編
2016	第9回	62校	721編
2017	第10回	79校	1636編

今年度は、東京都、栃木県、群馬県、茨城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、長野県、岐阜県の1都8県から79校の参加、1636編の応募（昨年比+17校、+914編）があり、参加校数、応募数共に過去最高を記録した。

特別支援教育の推進が叫ばれている現在にあって、本校が実践している混合教育、こころの教育をより多くの方に知っていただくこと、さらには障害のある人への理解、共生を考えることを目的として始めた作文コンクールも、10年の積み重ねが、徐々にではあるが実を結んでいるのではないかと感じている。

障害のある人への理解教育推進、そのうえでの一教材としてこの10年間提案してきた教材こそが、この作文コンクールのテーマである。現在も、夏休みの課題作文のひとつとして活用されている中学校が多い状況ではあるが、今回の応募作文については、授業の教材として位置付けて取り組んでいただいた学校がこれまで以上に多くあった。

今年度、参加校で担当された先生方に、この作文コンクールをどのように活用されたのかを伺ったところ、

①道徳の授業のなかで、障害者に関わることについて学習する機会があり、そこで本校の作文テーマをリンクさせて取り組ませた。

②国語および道徳の教材として活用している。(5年連続応募している中学校)

③特別支援学級を併設している中学校であり、共に生きていくための理解を深める機会と考え、導入した。

④生徒にとって身近なテーマとして、活用しやすかったから。
などの回答をいただいた。

本校は、文部科学省をはじめ教育行政の皆さまから、インクルーシブ教育、特別支援教育のパイオニアとして評価いただいている。また、全国各地から、ときには海外から教育関係者をはじめとした見学者が多く、本校の教育に興味・関心を持っていただいている。インクルーシブ教育、特別支援教育のパイオニアとして、本校の取り組みをより多くの方に知っていただくこと、障害のある人への理解、共生を考えていただくことをめざして、これからもこの作文コンクールを第11回、12回と、引き続き充実したものにしていけるよう取り組んでいきたい。

最後に、今年度の応募作品のなかから、すぐれた作品をここに紹介する。

テーマ⑤ 感謝を伝えたい人

『きっとあなたに届くと信じて』 Aさん

私が感謝を伝えたい人は、もうこの世にはいません。今は天国で安らかに眠っていることでしょう。あの日の景色、あの日の思い出。全てが私にとって大切な思い出です。

一家の大黒柱として私たちの生活を頑張ってくれていた父。そんなかけがえのない存在が急になくなった時、私の心の支えもなくなったような気がして溢れる涙が止まりませんでした。大切だったって気づくのはいつも失ってから。何もしてあげられなくて、むしろ文句ばかり言ってしまう自分。取り戻せない命。突然、「後悔」という名の思いが私の心を占領した。小さい頃から文句一つ言わずに、私たちをここまで育ててくれた父。大きな肩の上ののって見上げた空。本当「ありがとう。」の気持ちで一杯です。それなのにその言葉を伝えられないまま旅立ってしまいました。絶対いつかは言いたいと思っていた言葉。絶対いつかは親孝行してあげたいって思っていた。それなのに……。取り戻せない。うん、わかっている……。私は素直でなかった。本当は喋りたかったけれど、「邪魔! あっち行って!」とか醜い言葉ばかりを言ってしまった。素直になれなくてごめんね。悪口ばかりでごめんね。もう届かないってわかっているけど、少しでも反省している気持ちをわかってほしい。父がいることが当たり前だと思っていた過去の私。当たり前が突然当たり前ではなくなる事もあるんだよと父に教えられたような気がした。だから当たり前の日々を大切に過ごさない。そう言っている様な気がした。死は突然でいつ死ぬなんて誰にもわからない。だから「今」を大切に生きよう。教えてくれてありがとう。父は精一杯人生を楽しめましたか? 私が娘で良かったですか? きっと楽しめたよね。私はあなたの娘で良かった。どんな時も頼もしく優しくかった。

最後に伝えたい。「ありがとう。ごめんね。」と。届くかわからないけどきっと届くと信じて、愛を込めてこの言葉を私から送ります。

テーマ② 障害のある人も一緒に暮らすには？

『妹の言葉』 Bさん

「どうして、あの人は私たちと違うの？」

家族で買い物をしていたお店の中で、妹は私にそうききました。妹が、「あの人」と言ったのは、お店に来ていた障がいがある方でした。

私は妹に、「あの人は、障がいがあるんだよ。」と答えました。その答えを聞いて、妹はますます分からないという顔をしました。5歳の妹は、当然、障がいという言葉を知りません。それで私は、「障がいというのは、私たちが当たり前に行っていることが、できなくなってしまうことなんだよ。」と付け加えました。すると、妹は、さらに私に尋ねます。

「じゃあ、歩くことができないってこと？」と。それで私は、「そうだよ。」と答えました。それを聞いて、妹はやっと分かったような顔をしました。それから、こんなことを言ったのです。

「私たちは、今、普通に歩いているけど、もし私が歩けない病気になっていたら、こうしてお姉ちゃんと手をつないで歩くこともできなかったの？もしそうなら、お姉ちゃんは、私のことを嫌いになるでしょ？だって、お姉ちゃん、さっきの人をいやな顔して見てたもんね。」

私は、何も言えませんでした。この妹の最後の質問が、今も心に残っています。自分の考えていたことよりも、妹の考えの方がレベルがずっと上のような気がして、とても情けなくなりました。

それまでの私は、お店などで障がいをもつ方に出会うと、ジロジロと見てしまうことが多くありました。私たちとは違う様子が気になって、そこから目が離せなくなってしまっていました。そして、正直に言えば、心の中では、「どうしてあんなふうに私たちと違うんだろう。」と、私たちと違うことが、何か悪いことのように思っていました。

妹は、私の行動に気づき、自分が今のようでなかったら嫌われてしまう、と不安になったから、あんなことを言ったのです。

妹の言葉を聞いて、私は初めて障がいのある方の気持ちを想像してみました。自分に障がいがあることについて、「他の人と同じように生まれてきたのに、なぜ自分だけが違うのだろう。」「どうして、他の人が普通にやっていることを自分ではできないんだろう。」と思っているような気がしました。私には想像することしかできないけれど、それは、私は感じたことのある気持ちで言えば、後悔や罪悪感のように、自分ではどうしても晴らすことのできない、どこまでも続く暗い気持ちなのではないでしょうか。

そんな気持ちを抱えている上に、私のような人たちにジロジロと見られたらどうでしょう。きっと深く傷ついているに違いありません。

そういうことに初めて、私は妹の言葉から気がつきました。もし自分がその立場だったらと思うと、とても悲しい気持ちになりました。

私だけでなく、周りの人たちみんなが、そのことに気がつかなければなりません。「もし自分に障がいがあったら、どういう気持ちになるだろう。」そんなふうに考えてみたいです。

私が障がいがある人たちを「自分たちとは違う」と思っていたその気持ちが、いつか「差別」につながっていくのかもしれない。見ただけの違いにとらわれることなく、これからは、一人一人をしっかりと大切にしていきたいです。そのために、妹の言葉はずっと心の中にしまっておきます。

テーマ② 障害のある人も一緒に暮らすには？

「私の妹」Cさん

私の妹はある障害を持っている。「広汎性発達障害」それは発達障害の一種で、コミュニケーションなどが困難で、常同的な行動が特徴とされる。私は妹がいたからこそ嬉しかったことや楽しかったこと、時には辛いこともあった。でも、妹のことが嫌と思ったことは一度もない。

妹に症状が見え始めたのは1～2歳頃の事だ。最初はどのような病気かよく知らなくて正直困っていた。でも、一緒に過ごしていくうちにだんだん理解できるようになった。しかし、外に出ると妹の病気を理解できなくて傷つく言葉を言われることがあった。

「あの子何喋っているの。」

「あの子変なこと言ってる。」

こういうことを言われた時が一番傷ついた。私は普段一緒に過ごしているから気にしないけど、初めて会った人にとっては普通とは違うんだと改めて実感させられたときだった。

でもそんな心の支えになっていたのは妹本人と友達だった。妹はいつも笑顔で楽しそうに過ごしてて心の傷をいやしてくれた。友達は、妹のことをよく理解してくれて、理解者がいるだけでこんなに気持ちが楽になるんだと思った。いつも妹に対して、

「早く会いたいな。」や、「本当に可愛い。」

という言葉を書いてくれる。それがすごく心の支えになる。

私は妹の病気と出会って様々な変化があった。どんなにつらい時でも理解してくれる人がいるから前に進められることができたと思う。これからも、大切な妹と一緒に過ごしていきたい。

現在、多くの高等専修学校が発達障害のある生徒や特別に配慮が必要な生徒を受け入れている。また、ほとんどの学校が障害ある生徒と障害のない生徒を同環境のなかで教育支援をしている状況があり、苦勞されていると聞いている。平成27年度から本校で取り組んできた混合教育の成果を全国の高等専修学校に普及していくことに努めてきた。

平成27、28年度と継続して、全国高等専修学校協会および学校法人大岡学園 大岡学園高等専修学校との連携により実施したアンケート調査から本校の取り組みを発信していくことが重要であることを再確認した。特に各校において「学習」や「進路指導」に問題を抱える回答が多かったこともあり、混合教育という環境下で当該生徒の教育支援を行うにあたってどのようにして学習や進路指導を展開しているのか、そのカリキュラムを提示することにし、成果物として「混合教育カリキュラム集」を完成させた。ホームルーム、専門教科、普通教科については、学習内容についてではなく、それぞれの教科において、どのような点に留意して授業展開をしているのかの記述を加えているところを参考にさせていただきたい。また、障害程度中度・重度の生徒対象のカリキュラムについては、生活、学習カリキュラムを提示し、当該生徒の状況に即した指導展開ができるよう工夫をしている点を参考にさせていただきたい。さらに、進路指導（就労支援）カリキュラムは、本人・保護者・進路担当者の取り組みごとに整理し、3年間の流れおよびその詳細も示している。すべてをというのではなく、各校の状況に合わせて取り入れていくことを願う。

また、昨年度の事業から新たに混合教育推進のための「障害のある人への理解教育」をテーマにカリキュラムと教材開発の取り組みを始めた。第2章においてカリキュラムを示し、第3章において教材を提示した。特別支援教育の推進が叫ばれている現在にあって、本校が実践している混合教育、こころの教育の実践をより多くの方に実践していただくこと、さらには障害のある人への理解、共生を考えることを目指して作成したものである。本書にまとめるだけでなく、今後はWebページから閲覧、ダウンロードして活用していただけるようにしていく予定である。また、同目的で始めた本校主催「中学生こころの作文コンクール」も今年度10回目の節目を迎え、一定の成果を上げることができたので、実証のひとつとして報告することとした。

以上のように、平成27年度から継続事業として推進してきた本事業も3年の節目を迎えた。発達障害のある生徒や特別な配慮が必要な生徒が多く学んでいる高等専修学校において、本校で実践している混合教育のノウハウが役立つことを切に願っている。また、今後もこの取り組みを継続的に発信し、役立てていただけるよう取り組む所存である。

最後に、本校では本事業と別に「発達障害のある生徒など特別に配慮が必要な生徒の就労支援及び卒業後の定着フォロー支援の普及事業」にも取り組んできた。是非とも2事業の取り組みの成果を合わせて目をとおしていただくことを願う。